

研究区分	教員特別研究推進（独創・先進的研究）
------	--------------------

研 究 テーマ	高度急性期病院におけるプラチナナースの人材活用に関する研究 ―病棟師長のプラチナナースへの就業継続支援に焦点をあてて―				
研究組織	代 表 者	所属・職名	看護学部・講師	氏名	加納 江理
	研究協力者	所属・職名	中東遠総合医療センター 看護部 ・副部長	氏名	石田 佳子
		所属・職名	中東遠総合医療センター 看護部 ・副部長	氏名	鈴木 智子
		所属・職名	中東遠総合医療センター 看護部 ・副部長	氏名	清水 里美
		所属・職名	静岡県立大学 看護学部・講師	氏名	管原 清子
	発 表 者	所属・職名	看護学部・講師	氏名	加納 江理

講演題目
高度急性期病院におけるプラチナナースの人材活用に関する研究 ―病棟師長のプラチナナースへの就業継続支援に焦点をあてて―
研究の目的、成果及び今後の展望
日本看護協会は、2018 年度から「看護職の働き方改革の推進」を重点項目として掲げており、その一つに定年退職後もこれまでの経験を活かし、より一層活躍できる職場づくりややりがいを持てる働き方の検討を行っている。「プラチナナース」とは「定年退職前後の就業している看護職員」で、自分のこれまでの経験をふまえ、持っている能力を発揮し、いきいきと輝き続けている看護職員の呼称とされている。プラチナナースの臨床現場での活躍を支援することは、これからの日本において看護師を確保し高齢社会における医療の安定供給において重要な施策と思われ、看護師自身のやりがいの創出にもつながると考える。 そこで、本研究においては、高度急性期病院の看護師長の考えるプラチナナースの人材活用について明らかにすることを目的とした。 計画に基づき、第1研究としてA県内の高度急性期病床を持つ11病院の看護管理者により選出された研究対象者にGoogleフォームでの回答を依頼した。うち7名の回答を得た。「プラチナナースの存在をどう考えているのか」については、『経験豊富な看護の先輩』としながらも「自部署での人材活用の困りごと」を問うと『本人からの業務負担軽減の要求』、『新しい知識の習得が難しい』、『医療事故のリスク』、『健康問題』、『配置転換後の適応困難』等の管理者が抱える課題が挙げられた。「課題への対応としての行動」の問いには『その場の問題に対応』、『配置転換を考える』、『上司に相談する』といった意見が寄せられ、部署を管理する中で困難を感じていた。プラチナナースの状況を調査した先行研究で明らかになっていた「既知の状況で働きたい」という希望に対して、部署を管理する師長・課長が希望に沿うことの難しさを感じていることが分かった。第2研究は、この内容を基にインタビューガイドを作成し、研究参加者をリクルート中である。そのうえで、高度急性期病院でのプラチナナースの活躍の場について明らかにしていきたい。